

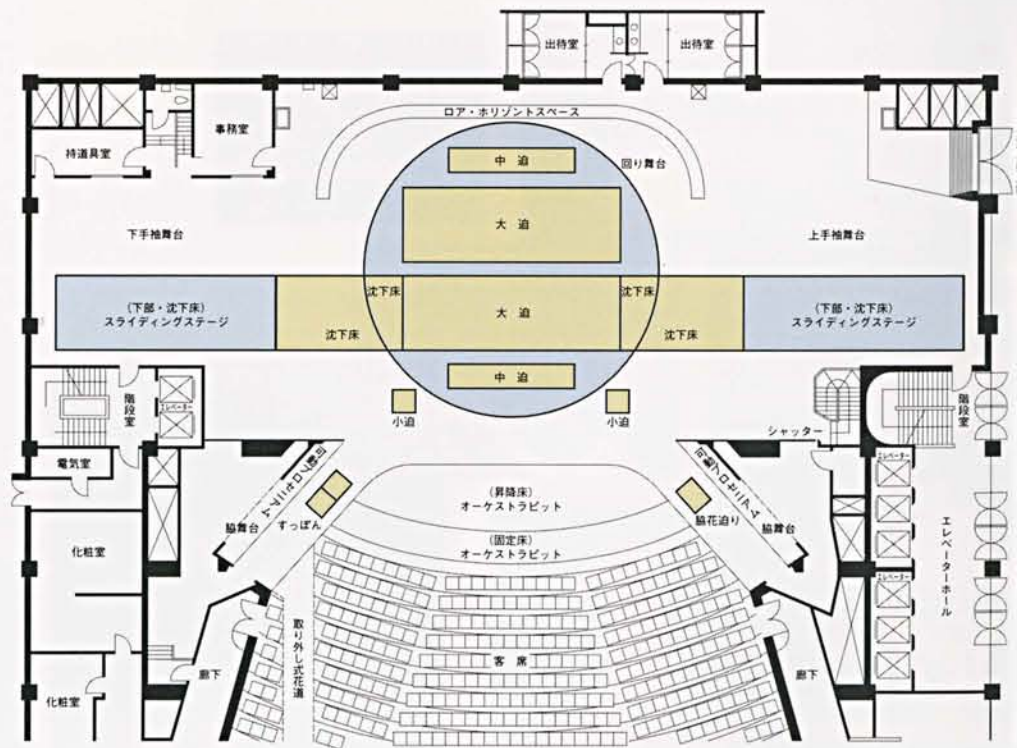
床機構

スムーズで効果的な舞台転換が、演出の妙味を引き立てます。

床機構には、舞台用語で「迫り」と呼ばれる昇降舞台、床が前後左右に水平移動する「スライディングステージ/ステージワゴン」、遠近法を取り入れる「傾斜床」、そして「回り舞台」と呼ばれる回転舞台があります。一般にはこれらの床機構を組み合わせて、スムーズな舞台転換や、舞台の効果的な演出を可能にするステージ・システムを構成しています。大掛かりな動作を伴う機構であり、確実な制御と万全の安全性が求められます。



■国立文楽劇場 (写真提供: 国立文楽劇場)



■舞台平面図/帝国劇場

迫り機構 Stage Elevators

舞台床の一部に開口を設け、この開口部から出演者や道具などが垂直方向に出入りできるようにしたものを「切穴」と呼び、ここに昇降機構を組み込んだものを「迫り」と呼びます。迫りは、その大きさによって大迫り、中迫り、小迫りに区分され、機能的な舞台転換や、より効果的な演出、あるいは立体的な舞台を構成するために使用されます。最近のホールでは、アクティングエリア(客席から見える舞台面)の全体に連続的な迫り機構を設け、自由な場面転換を可能にするケースも増えています。



■ふくやま芸術文化ホール / 大ホール小迫り奈落乗り場



■東京芸術劇場 / 中ホール床機構



■鳥取県立県民文化会館 / 大ホール大迫り



■舞台面

■下降中

■落下防止板開

■落下防止板閉



■奈落乗り場(昇降手すり開) 迫り床奈落面

■奈落乗り場(昇降手すり閉) 迫り床舞台面



■大迫りの駆動装置

大迫り (おおぜり)

舞台正面中央にある大型の迫りのことをいい、主に大道具を乗せて舞台転換に使用します。

中迫り (ちゅうぜり)

大迫りに付帯して設ける中型の迫りのことをいい、道具や出演者を乗せて舞台転換や演出に使用します。

小迫り (こぜり)

主に出演者を乗せて昇降する迫りのことをいい、ふつう4尺×9尺を標準サイズとして、3人の出演者が乗れる程度の大きさです。

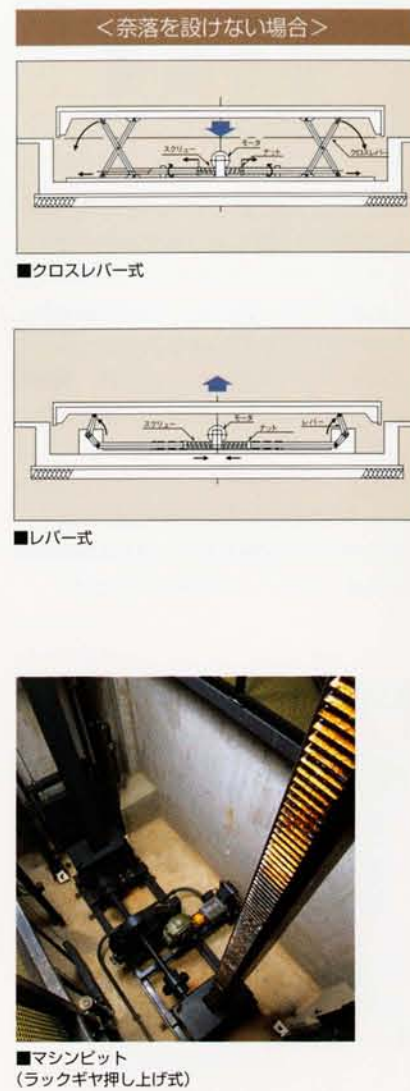
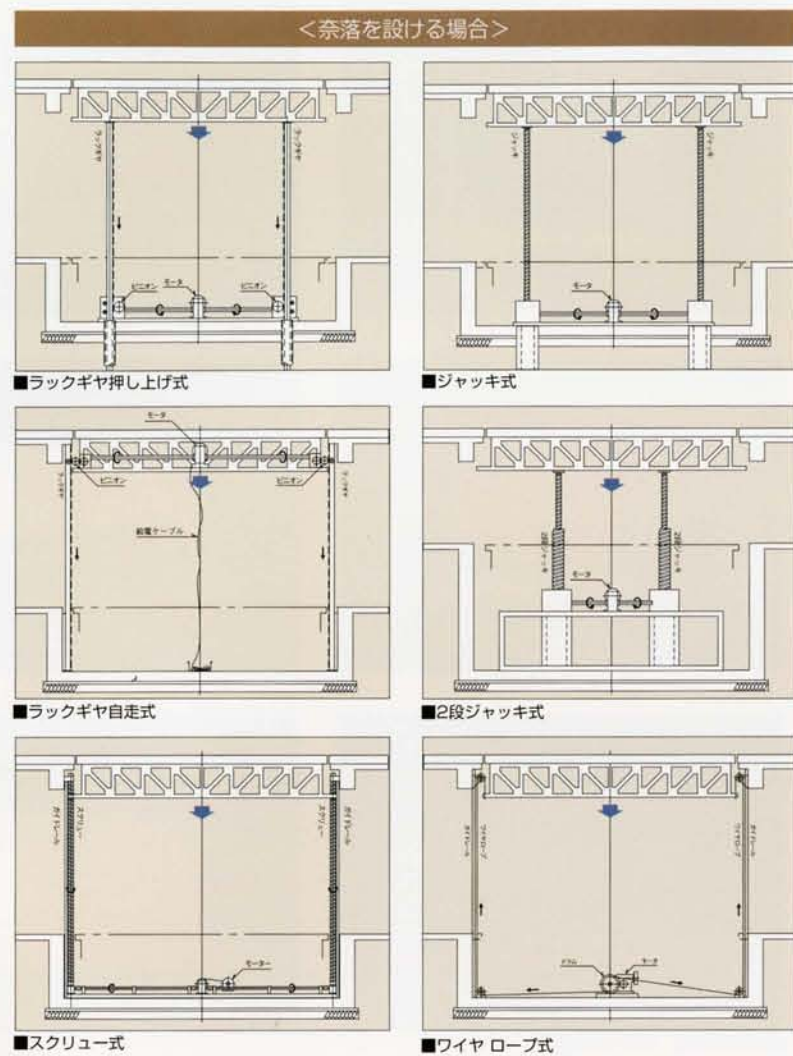
すっぽん

花道に設ける小さな迫りを特にこう呼びます。

雑段迫り (ひなだんぜり)

雑段状の舞台をスピーディに構成する迫りです。和物の出陣子が並ぶ座席や音楽会の演奏台として使います。

駆動方式



迫りの安全対策

迫り機構は、上演中に確実に動作することはもちろん、迫りに乗って移動する人、舞台の切穴や奈落の乗り場近くにいる人の安全を確保するため、各種の安全装置を備えています。



オーケストラ迫り
Orchestra Elevators

オペラ、バレエ、ミュージカルが上演される際、舞台と観客席の間に設けられたオーケストラ演奏用の場所を「オーケストラ・ピット」と呼び、その床に昇降機構を設けたものを「オーケストラ迫り」と呼びます。オペラ、バレエ、ミュージカルの専用ホールでは、固定設備の「オーケストラ・ボックス」を設ける場合もありますが、多目的ホールでは、オーケストラ迫り（通称：オケ迫り）を設けるのが一般的です。オケ迫りは、オーケストラ・ピットとして使用されるほか、舞台面と同じ高さまで上げて「張り出し舞台・前舞台（エプロンステージ）」としたり、客席床面と同じ高さにして客席の一部とするなど、多目的に使用されます。



オーケストラ迫りの構成
オケ迫りには、昇降床全体を一台の迫りとして昇降させるシステムのほか、昇降床を分割して、より柔軟な動作制御、スペース利用を可能にすることもできます。



① 主舞台



② ステージワゴン走行レベル (主舞台・沈下床)



③ ステージワゴン(回り舞台) 上手より走行中

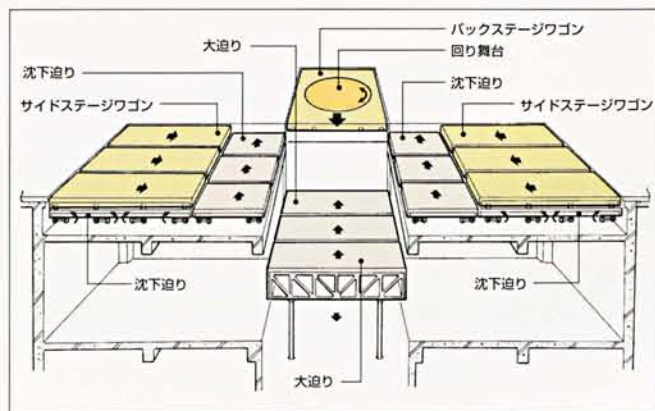
■東京芸術劇場中ホール



④ ステージワゴン走行中 (残り2間)



⑤ 主舞台にステージワゴン(回り舞台) セット完了
上手沈下床、舞台レベルに上昇



水平移動舞台

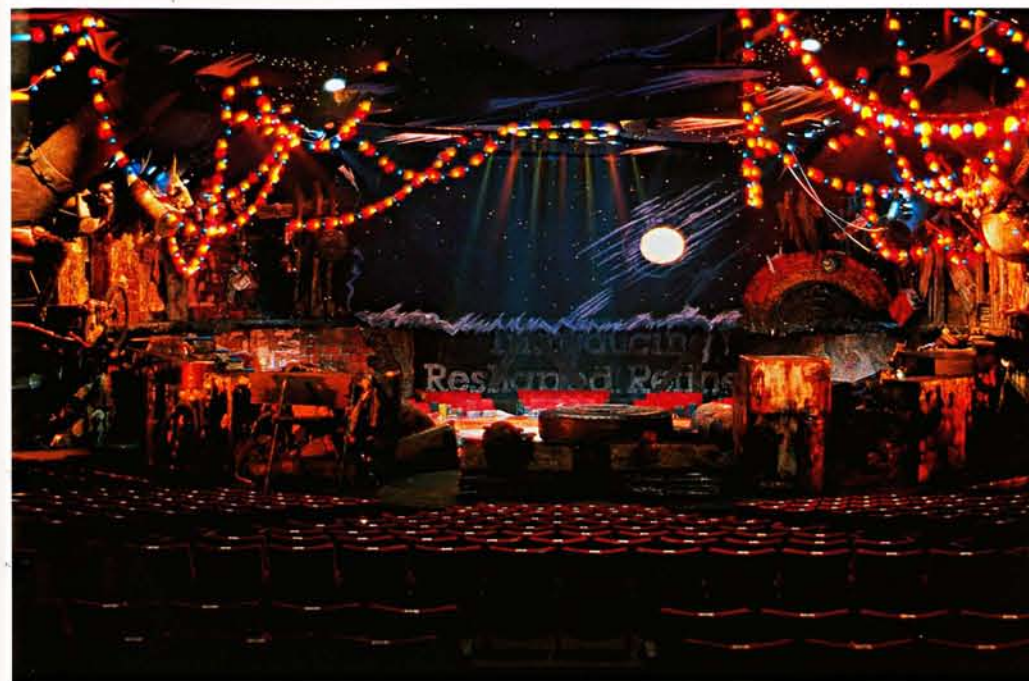
Sliding Stages
Stages Wagons

スライディングステージ

スライディングステージは、舞台床の一部を前後左右に走行させて舞台転換を行う床機構です。一般にスライディングステージだけを設けるケースは少なく、迫りや回り舞台と組み合わせて設備されます。この機構を設備する場合は、その構成に応じて、主舞台の左右と後方にスライディングステージを移動するスペース(副舞台)が必要になります。また、舞台床レベルで移動するため、沈下迫りが必要です。

ステージワゴン

ステージワゴンは、舞台床面上を水平に走行するワゴン型のステージで、前後に移動するバックステージワゴンと、左右に移動するサイドステージワゴンがあります。主舞台の迫り機構と連動して昇降させる機能をもつものもあります。また、回り舞台を内蔵することも可能です。設備する場合は、その構成に応じて副舞台と奈落のスペースが必要です。



■「キャッツ・シアター」回転前 (写真提供: 劇団四季/撮影: 山之上 雅信)

回り舞台

Revolving Stages

回り舞台は、舞台床の一部を円形に切り抜き、これを回転して舞台転換に用いたり、印象的な演出効果を得るために設ける床機構です。「円筒型回り舞台」「平盆型回り舞台」が一般的であり、特殊な組み合わせで双子盆、親子盆や回り舞台そのものが昇降する2重、3重の回転迫りがあります。

円筒型回り舞台

奈落がある場合に設置する回り舞台で、複数の迫りを内蔵し、場面転換や演出効果を高めるために活用されています。代表施工例: 宝塚大劇場・劇場飛天・明治座・南座・国立劇場・帝国劇場・国立文楽劇場

平盆型回り舞台

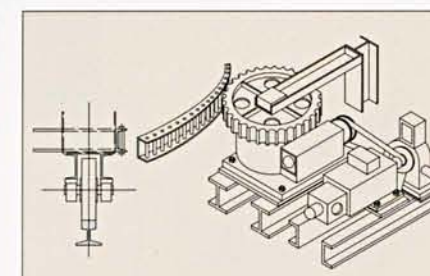
奈落がない場合、あるいは浅い場合に設置する回り舞台です。また、舞台上で組み立てる可搬式の平盆型回り舞台もあります。



■「キャッツ・シアター」回転後



■円筒型回り舞台(大阪松竹座)工場仮組試運転



駆動方式

■ピンラック方式
ほかに、フリクションドライブ方式とワイヤーロープ方式があります。

